

第1号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策計画書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 102-8450
 住 所 東京都千代田区二番町8番地8
 氏 名 株式会社イトーヨーカ堂
 代表取締役 三枝 富博

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第9条第1項(同条第4項において読み替えて準用する場合を含む。)の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	株式会社イトーヨーカ堂		
主たる事務所又は 事業所の所在地	川崎市 中原区新丸子東 3-1135-1		
該当する事業者 の要件	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者(任意提出事業者)		
主たる事業 の業種	大分類	I	卸売業、小売業
	中分類	50	各種商品卸売業
主たる事業 の内容	衣料品、住居関連商品及び食品を取り扱う総合小売業		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量	9,808	k J
	<input type="checkbox"/> 自動車の台数		台
	<input type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t-CO ₂

(第2面)

計 画 期 間	2019 年度 ~ 2021 年度
温室効果ガスの排出の量の削減を図るための基本方針	別添 指針様式第1号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減に向けた組織体制	別添 指針様式第1号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第1号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の内容に係る事項	別添 指針様式第1号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置に係る事項	別添 指針様式第1号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第1号のとおり
備 考	

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。
 2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。
 3 計画書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。
 4 ※印の欄は記入しないでください。
 5 氏名（法人にあっては、その代表者）を記載し、押印することに代えて、本人（法人にあっては、その代表者）が署名することができます。

事業活動地球温暖化対策計画

1 温室効果ガスの排出の量の削減を図るための基本方針

(1) 温室効果ガス排出量削減に向けた方針

株式会社イトーヨーカ堂は、環境に関連する法規制を遵守し、事業活動が、地球規模の資源問題、温暖化問題に関して深く認識し、商品の開発・生産、配送といったサプライチェーンから、販売、消費までのすべての段階における環境負荷を評価し、CO2排出量を削減 するよう努めます。株式会社イトーヨーカ堂は、CO2削減に向けて、以下の取り組みを事業特性に合わせて実施します。

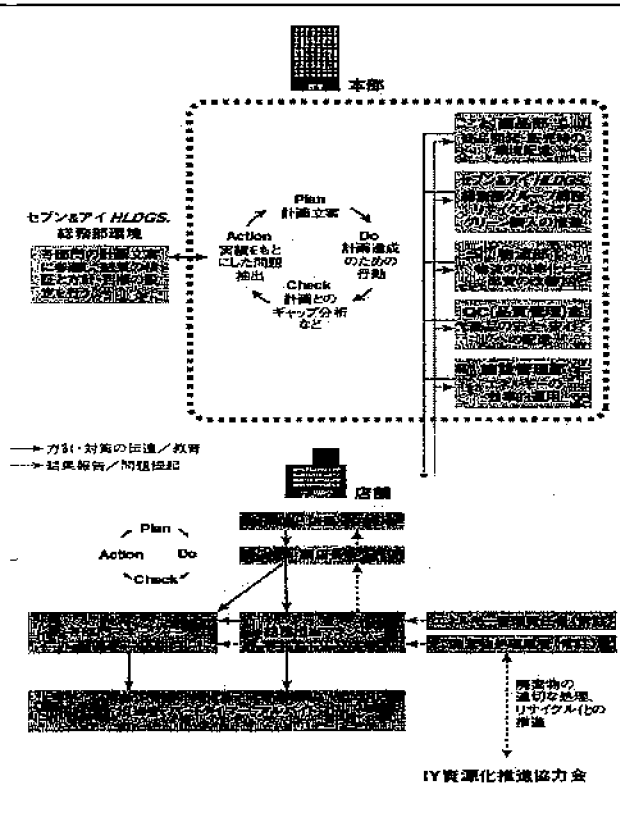
- ①商品の開発・生産によるCO2の削減
 - ・商品の容器・包装では、軽くする・薄くするなどの他、環境負荷の低い新素材を導入します。
- ②物流の効率化によるCO2の削減
 - ・店舗への商品の配送は繰り返し使える通い箱』を活用することで資源を有効活用します。
- ③販売にともなうCO2の削減
 - ・環境マネジメントを徹底し店舗、事業所でのエネルギー使用を削減します。
- ④社員によるCO2削減
 - ・全社員に対して環境教育等を通じた啓発に努め、社員自らがCO2 削減を積極的に進めていきます。

(2) 削減対策実施状況の適切な進行管理（PDCAサイクル）を行うための方針

- ①PDCAサイクルを行うための推進体制を整備する。
- ②エネルギー使用量及びその負荷変動を管理し、過去の実績との比較及び分析を行う。
- ③空調管理は区画の使用状況に応じた設備の運転時間、室内温度・湿度、換気回数、外気の有効利用を適切に設定し管理標準を見直し更新する。
- ④照明設備は区画毎に調光設備及び昼光を活用すると共に過剰又は不用な点灯を無くす。

2 温室効果ガスの排出の量の削減に向けた組織体制

イトーヨーカドーは、セブン&アイHLDGS.の総務部環境と連携しながら、グループの方針に基づく環境保全活動計画を策定するとともに、テーマ別に設定した担当部門が各店舗への教育・管理に取り組みながら「目標の設定 (Plan)、実行 (Do)、検証 (Check)、改善 (Action)」というサイクルに沿った環境マネジメントを徹底しています。



3 温室効果ガスの排出の量の削減目標等

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量等

ア 基準排出量と目標排出量（(実)は実排出量を、(調)は調整後排出量を示す。以下同じ。）

		1、2、4号該当者等		3号該当者等		
基準	年度	2018				年度
目標	年度	2021				年度
基準	排出量	(実)	18,474	(実)		
		(調)	18,024 t-CO ₂	(調)	t-CO ₂	
目標	排出量	(実)	17,920	(実)		
		(調)	17,483 t-CO ₂	(調)	t-CO ₂	
削減量		(実)	554 t-CO ₂	(実)	t-CO ₂	
内訳	対策実施による削減量	(実)	554 t-CO ₂	(実)	t-CO ₂	
	上記以外の削減量	(実)	0 t-CO ₂	(実)	t-CO ₂	
削減率		(実)	3.0 %	(実)	%	

イ 基準排出量原単位等と目標排出量原単位等（任意記載）

		1、2、4号該当者等		3号該当者等	
原単位等の活動量		売場面積×営業時間			
原単位の単位		t-CO ₂ /m ² ・百万h			
基準年度の値		47.34			
目標年度の値		45.92			
削減率		3.0 %			

ウ 目標設定に関する説明

○計画期間中(令和元年～令和3年度)は各店舗のテナント比率増を予定しており総排出量は減少の予定です。又、老朽化設備の更新等省エネ設備の導入を計画化しています。
 その他営業に直接関連する事項について今後3年間の計画が現時点では不明確な要素が多いため、3年間で約3%の排出量及び原単位の削減を目標に設定しました。
 ○日本チェーンストア協会統一の指標であるエネルギー消費原単位である、売場面積×営業時間を目標指標にしております。

(2) 温室効果ガスの排出の量の削減目標（全社目標）（任意記載）

--

4 温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の内容に係る事項

(1) 措置の内容

ア 計画期間に実施する措置の内容 (別表第1から6等を参考に記載してください。)

計 画	①P D C Aサイクルを行うための推進体制を整備する。 ②エネルギー使用量及びその負荷変動を管理し、過去の実績との比較及び分析を行う。 ③空調管理は区画の使用状況に応じた設備の運転時間、室内温度・湿度、換気回数、外気の有効利用を適切に設定し管理標準を見直し更新する。 ④照明設備は区画毎に調光設備及び昼光を活用すると共に過剰又は不用品点灯を無くす。 ⑤既存の設備に関しエネルギー効率や老朽化の状況等を把握・分析し、更新においてはエネルギー効率の高い機器を導入する。
第1年度	/
第2年度	/
第3年度	/
計画期間における取組の評価 (第3年度の報告時に記載)	/

イ 実施済みの主な温室効果ガスの排出の量の削減対策内容

(1) 店内、バックルームの照明器具をLEDに更新した。(川崎店、川崎港町店、溝の口店、武蔵小杉駅前店、新百合ヶ丘店)

(2) 再生可能エネルギー源等の利用等

ア 基準年度までに実施した再生可能エネルギー源等の利用に係る検討状況

(検討済みの場合は「○」、未検討の場合は「×」を記載し、検討済みの場合は検討結果を記載してください。)

再生可能エネルギー源等の種類	検討の有無	検討結果
太陽光	○	グランツリー武蔵小杉店に導入
風力	×	
バイオマス	×	
未利用エネルギー	×	
その他()		
その他()		

イ 再生可能エネルギー源等を利用した設備の導入状況・計画及び再生可能エネルギー源等の価値の保有状況・計画

種類	概要(規模、場所など)	導入(保有)年度
太陽光	28.572kW グランツリー武蔵小杉店	平成26年設置

(3) 基準年度までに実施したエネルギーの効率的な利用を図るための設備等の導入・検討状況

(導入済みの場合は「○」、導入検討中の場合は「△」、導入予定なしの場合は「×」を記載してください。)

設備等の種類	導入等の状況	設備等の種類	導入等の状況
電気自動車等への充電設備	○	エネルギー管理システム (FEMS、BEMS等)	○
電気自動車等から建物等への給電設備	×	その他()	
EV、PHV、FCV	×	その他()	

5 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置に係る事項

計 画	・特に無し
第1年度	
第2年度	
第3年度	

6 その他、地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項

計 画	・セブン&アイグループのプライベートブランド「セブンプレミアム」では、「おいしさ」「品質」「安全・安心」といった価値の追求とともに、環境への配慮も重視して商品の開発を行っています。これまでに、リサイクルPETや間伐材など環境に配慮した容器・包装を、950アイテムで採用しました。これら取り組みを継続強化します。
第1年度	
第2年度	
第3年度	

7 基準年度のエネルギー起源CO₂の排出の量等の実績(1、2号該当者等)

(1) 事業者単位

ア エネルギー起源CO₂の排出量

(実)	18,474	t-CO ₂
(調)	-	

イ 原油換算エネルギー使用量

	9,808	KL
--	-------	----

ウ 事業所の数

	6
--	---

(2) 事業所等単位

ア 年間の原油換算エネルギー使用量が1,500kl以上の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO ₂ の排出量
グランツリー武蔵小杉店	川崎市中原区新丸子東3-1135-1	6,526 t-CO ₂
イトーヨーカドー川崎店	川崎市川崎区小田栄2-2-1	3,812 t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂

イ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で500kl以上1,500kl未満の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO ₂ の排出量
イトーヨーカドー川崎港町店	川崎市川崎区港町12-1	2,559 t-CO ₂
イトーヨーカドー新百合ヶ丘店	川崎市麻生区上麻生1-4-1	1,933 t-CO ₂
イトーヨーカドー武蔵小杉駅前店	川崎市中原区小杉町3-420	1,835 t-CO ₂
イトーヨーカドー溝ノ口店	川崎市高津区久本3-6-20	1,809 t-CO ₂